

帰ってきたが、初めての海外旅行をたつた一人でよく行ってきたと思う。そして多くの方々に御世話になった。この場を借りて御礼を申し上げたい。この報告が今後海

外出張や海外旅行に行かれる方のために少しでも参考になれば幸いである。

## コ ラ ム

### 失敗報告会の勧め

今は亡き朝永振一郎博士はその専門とする理論物理以外に随筆家としても著名であり、その作品は朝永振一郎著作集（全 15 巻、みすず書房）に収められている。読者の中には既に読まれた方も多と思うが、この随筆には自然科学の分野から市井のでき事まで一見すると見すごされそうなありふれた現象を科学者としての鋭い観察力、深い洞察力により見詰めた作品が多い。またその作品は飾りを取り去った平易な珠玉の文章により構成されており読む人を飽きさせない。特に博士がドイツ留学中、研究の行き詰りの中で湯川博士が続々と研究成果を発表するのを遠い異国の地で知り焦りを覚えながら悶悶として過ごす様子など、その内面の葛藤の一端が伺い知れ興味深い。

ところでこの随筆の中に学会のシンポジウムで研究の失敗の反省会が開かれたことが述べられている。これは戦前の数学物理学学会で行われたもので実験、研究

がうまくいかなかつた報告をし合えば、同じ失敗をして時間、エネルギーの浪費がなくなるという主旨のシンポジウムのものであつた。

振り返つて我が鉄鋼協会講演大会の 800 件を越す発表をみても、このような目的でこのような実験、解析を行つたが失敗したという報告は見当たらない。最近のように鉄鋼技術分野でも従来とは異なつた新分野で技術開発を行い成果を上げるには、それなりの失敗例が数多くあつたはずである。これら失敗例をその理由も含め報告してもらうことは、同分野の仕事に携わっている者にとって、時間、エネルギーの浪費をなくすことはもとより、今後の新技術開発を行う上で大いに役立つものと考えられる。

学会の性格上、またこの種のシンポジウムの運営上、各種問題はあろうが一考の価値はあるのではなからうか。識者の御意見はいかがか。

（日本鋼管(株)鉄鋼研究所 坂本 登）